

各地で推進員さんの活動が活発に！

25年度の推進員さんの委嘱式から、半年が経過しました。前年度から継続委嘱された方、新規に委嘱された方、皆さんが各地で積極的に活動されています。地区としての活動、推進員として新たな活動を始めた方の状況をご紹介します。

再生可能エネルギーの施設を見学(西部地区)

11月13日(水)西部地区の推進員さんによる企画で、藤岡市内の小水力発電2箇所とバイオディーゼル燃料を作っている会社の見学会をしました。再生可能エネルギーに関する勉強会がしたいと推進員さんが働きかけ、実現したものです。

見学を受け入れていただいた会社の方から、それぞれ丁寧な説明を受けました。それぞれとても素晴らしいものでしたが、こうした取り組みが「なかなか広がらない」というのが悩み。

見学会終了後には、会議室を借りて、西部地区の会合も行いました。見学会の内容が濃かっただけに、皆さんからの感想もたくさん出ました。「知名度を上げるには?」「効率的な使い方はないか?」「どこへ話を持っていけばいいか?」と話題はつきませんでした。



(写真上) 施設見学会に参加された皆さん

(写真下) 見学会終了後の西部地区会合

出前講座講師としてデビュー

推進員さんが講師デビューされています。エコクッキングの出前講座では、先輩講師に付いて勉強してからこの日デビューしました。樋越公民館では、温暖化の話から節電・省エネの



10月30日(水)エコクッキング出前講座



11月17日(日)樋越公民館 出前講座

話しまで、当日を迎えるまでに資料の相談など何度もセンターに足を運んでいただきました。

講師をやった感想は、ご本人に直接、お聞きになってみてください。

(^ ^♪)

イベントでも活躍(推進員さんが推進員さんをうちエコ診断)

12月1日(日)沼田の「ごったく祭り」にセンターとして出展しました。センターの活動紹介や『うちエコ診断』を行いました。

推進員さんは、ほかのブースでも地域の環境保全団体として出展されていて大忙しでしたが、合間を見て『うちエコ診断』を受けてくれました。診断員さんも推進員さんです。



推進員さんが推進員さんを診断

「中部地区推進員会議」のご案内

- ・開催日時: H26年2月18日(火)13時～15時
- ・会場: 前橋市総合福祉会館 3階 第3会議室
- ・テーマ: 整理収納は地球を救う…暮らしの中の整理
収納からみた地球環境について、推進員の三木さんから、お話をしていただき、意見交換を行います。
他地区の推進員さんも是非、ご参加ください！

県内各地でいろんな活動が始まっています。今回紹介しきれなかったところもありましたが、今後も適宜、紹介していきます。

出来ることから一歩ずつ、活動を広げていきましょう！



このページでは、各地で活躍されている群馬県地球温暖化防止活動推進員さんの活動を紹介しています。今回は、民生部門で、活躍されている温暖化防止活動推進員さんを紹介します。

環境活動は原点である生活の見直しから

――三木 恵子 さん〔玉村町在住〕

今年の大掃除は終わりましたか？ 大掃除ともなると、普段手につけない奥の所から、こんなモノがあったー！なんて経験ありませんか？

近年、整理収納講座や住まいのお手入れ講習会の講師を務めるようになり暮らしと環境活動とは、とても関係がある事に気がきました。

今や地球温暖化やエコという言葉は誰でも聞いたことがあり、節電、節水、エコドライブ、ゴミの減量・分別などすべき行動も知っています。しかし、現実では、モノを多く抱え過ぎて探し物に時間がかかりエコドライブどころか急発進で出かけます。安いからとモノを買ったりもらったり、または2度買いをしてしまう。モノは増え続け、いずれは大量のゴミになります。モノが多いと掃除もたいへん。つい汚れもひどくなり強い洗剤を使い水も汚します。問題点はまだまだたくさんあります。

環境に良い行動はまずは暮らしを整える事。私は本当に必要なモノや適正量を意識して考え判断できるように、またモノを大切にする正しい意味を受講者や周りの人に伝え、そこから環境活動へつなげる取り組みをしていきたいと思っています。

良い習慣を身につけることは、暮らしやすさと地球の未来も変えるでしょう。



おそうじ方法と汚さない習慣を住まいのお手入れ講習会で説明しています

やれば出来る！初めての、展示活動 緊張しました！

――反町 忠雄 さん〔草津町在住〕

私は、地球温暖化防止活動推進員の他に、草津町生涯学習奨励員をやっています。奨励員の会議で、草津町文化祭の作品展示募集の議題がありました。文化祭の作品展示に温暖化防止の展示が出来るのではないかと思います、会議の場で、温暖化防止の展示をすることを決めました。初めての展示活動なので、展示ボード1枚分のスペースを確保しました。

展示活動を決定しても、何を展示するかも分かりませんでした。すぐに、推進センターに電話をして、展示活動の相談に乗ってもらいました。展示パネルのパンフレットを郵送してもらい、3枚の展示パネル、『No.1地球温暖化の原因と予測』、『No.8エコライフー省エネー』、『No.9エコライフー消費ー』を選び、展示テーマは『家庭で出来るエコライフ』にしました。

文化祭前日に、他の展示出品者と共に会場設営と展示物搬入をしました。パネルを3枚展示し、配布用チラシを7種類置きました。絵画や書道が展示されている一角で展示を行ったので、温暖化防止に興味を持ってくれる人は少なかったです。また、展示内容について質問された時、緊張してうまく答えられませんでした。

来年は、展示ボードを2枚に増やし、展示内容に興味を持ってもらえるように工夫した展示にしていきたいです。



草津町文化祭で、『ストップ温暖化！・家庭で出来るエコライフ』の展示活動

温暖化の原因は人間の活動であることがより確実に！

9月末にスウェーデンのストックホルムで、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第一次作業部会が開催され、第4次報告書（AR4）から6年ぶりの改訂となる第5次報告書（AR5）が公表されました。第一次作業部会は自然科学的根拠についての観測・予測であり、一般の私たちにはわかりにくい内容なので、群馬大学の西菌大実教授に教えていただきました。



IPCCの報告書とはそもそもどうやって書かれているのですか？

—IPCCは国連の一機関で、ひとことで言ってしまうと、全世界から参加している科学者の研究結果を専門家がまとめるというもの。一人の科学者が出した結論ではなく、世界中でそれぞれバラバラに研究した結果のまとめだということです。それらの結果が同じ方向性だったので、確実性が高まったと言えます。これらのデータを、第一段階、第二段階で1,500名ほどの専門家が5万件以上のコメントを出し、最終案でも1,855のコメントが寄せられたものをさらに検討し、最終的には2千ページを超える報告書となりました。日本からも報告書執筆には10名が参加しています。

世界中で研究した結果を比較検討した、ということですか？

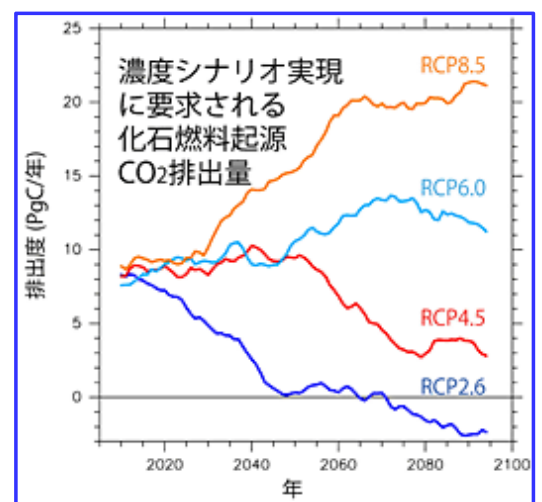
—実験材料として実際の地球を使えば最も確実なデータが出ますが、地球は一個しかないのもそれは無理ですね。そこで、地球の大気と海洋の循環を再現した仮想の星をスーパーコンピュータの中に作り出します。これを「気候モデル」といいます。スーパーコンピュータの中のこの「別の星」を、いかに地球に似せるかが研究者の腕の見せ所です。今は世界中に30以上の気候モデルがあり、そこで得られた研究結果を比較検討しています。

気候モデルでの温暖化の予測はどうやってやるのですか？

—群馬と東京のように100km離れたところの天気や気温は違いますね、ですが、前橋と高崎ぐらいの10kmの距離なら天候は似ています。そこで、地球を10km格子でブロックに区切って、そのブロックごとの日射量とか水蒸気量、地形などのデータを入れて空気の流れを流体力学で計算してやると、雲が発生して雨が降り、実際の気候と同じようになります。これが気候モデルです。ここでCO₂が増えた場合の気候の変化を計算します。地球をこのサイズのブロックで分割すると、その数は1億個以上になりますので、パソコンではとても計算できませんが、それをスーパーコンピュータで計算するのです。

第4次報告書(AR4)との違いはなんでしょう？

—今回大きく変わっているのは、CO₂濃度が増加した将来の姿（シナリオ）の違いです。AR4では、「こんな社会でいくと結果としてCO₂濃度はこうなるよ」という社会の姿から未来予測を描くというシナリオを使っていましたが、かなりアバウトなもので批判も多く出ていました。また、こうした固定したシナリオでは、さまざまな対策に対応できません。AR5では、「2100年までにCO₂濃度をこうする」という目標を決めて、そこから「そのためにはどのような社会をつくり、何をしたらいいか」というバックキャスティングの手法で考えられるようにしています。目指す二酸化炭素濃度によって4つのシナリオがあり、シナリオの書き方でAR4よりは気温上昇の数字が小さくなったように見えますが、結果としてはほぼ同じです。より精度が高まって、確実性の高い予測となっています。



RCPシナリオ実現に要求される
化石燃料起源CO₂排出量

〔4つの濃度シナリオを用い、地球システム統合モデル（ESM）を用いた実験から計算された化石燃料起源CO₂排出量〕

880年以降の100年余りで0.85度、世界の平均気温は上昇したとの報告ですが、気温が上がることに ては「たった1度がそんなに大変？」と思われるようですが？

—平均気温だからわかりにくいですが、夏の気温を例にとると、今の夏は38度の猛暑が一ヶ月続いたりします。かつての33度の夏では大丈夫でも、38度ではたくさん亡くなる方がいます。33度から5度も高いですが、1か月は1 / 12年ですから、これを年の平均にすると0.4度上昇にしかありません。2度上がるということは、この5倍上がるということです。逆に寒い冬に気温が下がり平均では相殺されてしまうこともあります。100年後に2度以内の上昇にとどめなければならないと言われていますが、年平均気温が2度も上がるというのは大変なことなのです。

海面上昇、海水温上昇についてはどうでしょう？

—海面上昇のことは気温の変化ほどには確実な予測はできていませんし、海面上昇だけを止めることもできないですから、まだそれほど気にしないでいいでしょう。それよりも日本の場合は海水温の方が問題ですね。海水温が高くなったことにより、高気圧や低気圧が強大化するなど、気候の影響は既に出ていますね。今回の報告では、海に多くのエネルギーが蓄えられ、海水温が高くなっていることも指摘されています。

今回の報告でも気象の「極端現象」のことが書かれていますし、今回の報告書で出された数字がどんな意味(影響)となるかは3月の第二作業部会で検討されます。

—今回の報告では、この100年で海面は17cm、気温は0.85度あがったとか、今世紀末には海面は26～82cm、気温は今より0.3～4.8度あがると書かれています。科学者にとって大事な数字の大小ではなく、因果関係、傾向の分析、が大事なのです。科学で証明できるということは、仕組みがわかるということなのです。仕組みは大分わかってきました。では次にどういう影響が出るかは、3月末の横浜での第二作業部会の報告を待たなければなりません。

今回のIPCC第5次報告書を簡単に まとめると？

—前提として気候モデルを使った予測であり、そのうえでより科学的なシナリオをたてたということです。人為的CO₂排出の仕方による4つのシナリオを作り、気候モデルで2100年まで動かしてみた、そうしたら、CO₂濃度の高いほうの2つのシナリオでは、2度以上の気温上昇が起これば容認できない結果だということがわかった。

そして「人間が出したCO₂で温暖化が起こる」という仮説の確実性が高まった、ということです。CO₂原因説がより強く言えるようになりました。ワルシャワで開催されたCOP19で日本は大変恥ずかしいことになってしまいました。国内対策の2005年より3.8%削減というのは、残念ながら国際的にはまったく評価されていない、最悪のシナリオに近い現実であると言えます。気温上昇を2度以内に収めるためには「2050年には50%削減」という目標が、より確実になり、動かしがたいものになったと言えます。

これまでの報告の温暖化と人間活動の影響関係についての表現の変化

第1次報告書 First Assessment Report 1990	1990年	「気温上昇を生じさせるだろう」 人為起源の温室効果ガスは気候変化を生じさせる恐れがある。
第2次報告書 Second Assessment Report: Climate Change 1995	1995年	「影響が全地球の気候に表れている」 識別可能な人為的影響が全球の気候に表れている。
第3次報告書 Third Assessment Report: Climate Change 2001	2001年	「可能性が高い」(66%以上) 過去50年に観測された温暖化の大部分は、温室効果ガスの濃度の増加によるものだった可能性が高い。
第4次報告書 Fourth Assessment Report: Climate Change 2007	2007年	「可能性が非常に高い」(90%以上) 温暖化には疑う余地がない。 20世紀半ば以降の温暖化のほとんどは、人為起源の温室効果ガス濃度の増加による可能性が非常に高い。
第5次報告書 Fifth Assessment Report: Climate Change 2013	2013年	「可能性がきわめて高い」(95%以上) 温暖化には疑う余地がない。 20世紀半ば以降の温暖化の主な要因は、人間活動の可能性が極めて高い。

今後のスケジュール

- ・ 平成26年3月25日～29日 IPCC第38回総会 (於 横浜市)
第2作業部会報告書SPM承認・公表、及び、本体受諾
- ・ 平成26年4月7日～11日 IPCC第39回総会 (於 ベルリン (予定))
第3作業部会報告書承認・公表、及び、本体受諾
- ・ 平成26年10月27日～31日 統合報告書に関するIPCC総会 (於 コペンハーゲン)
統合報告書承認・公表、及び、本体受諾

JCCCAのホームページにIPCC第5次報告の特設ページが開設されました。URL
(<http://www.jccca.org/ipcc/>)を入力するか、「IPCC特設」で検索してアクセスしてください。

平成25年度ぐんま環境学校(エコカレッジ)を開講しました



県からの
お知らせ

～ぐんま環境学校 (エコカレッジ) とは?～

ぐんま環境学校 (エコカレッジ) は、地域の環境学習又は環境活動を実践できる人材の育成を目的としています。環境問題や環境ボランティアに興味のある方を対象に講義やフィールドワークをとおして、環境に関する基礎知識やボランティア活動を幅広く学びます。受講生は、参加をきっかけに環境保全に対する想いを強め、今後の活動への意欲を新たにしました。

(受講生同士の自己紹介)

～平成25年度実施状況～

- 受講生 18名
- 実施期間 平成25年8月7日(水)～10月23日(水)
- 講座回数 7回(座学4回、フィールドワーク・実習3回)
- 参加条件 (座学: 3回以上、フィールドワーク・実習: 1日以上出席)
- 講義内容 下表のとおり



1 基礎講義

開講日時	講 師	講義内容	場 所
8月7日(水) (18:30～20:30)	群馬大学教育学部 西 蘭 大実 教授	開校式、地球温暖化・エネルギー資源	ビジターセンター
9月5日(木) (18:30～20:30)	高崎経済大学地域政策部 飯島 明宏 准教授	里地里山に学ぶ自然生態系との共生	県庁292会議室
9月11日(水) (18:30～20:30)	群馬県環境保全課	水質保全、大気保全、放射線対策	県庁292会議室
10月23日(水) (18:30～20:30)	環境学習サポーター	「環境ボランティアと地域の関わり方について」、閉校式	県庁294会議室

2 フィールドワーク・実習

開講日時	講 師	講義内容	場 所
8月10日(土) 9:00～15:00	群馬県憩いの森 森林学習センター	育樹作業(森林整備の体験)	伊香保森林公園 (渋川市)
9月16日(月・祝) 10:00～15:00	尾瀬ガイド協会 認定ガイド	尾瀬・山の鼻ビジターセンター フィールドワーク	尾瀬ヶ原
10月9日(水) 10:00～15:00	群馬県 廃棄物・リサイクル課 桐生市清掃センター	資源循環、ごみの減らし方 施設見学、リサイクル実習	桐生市清掃センター

～受講生の声～

☆今まで以上に環境に配慮した生活を心がけたいです。また、エコカレッジで学んだことを家族や友人、職場など周囲に広めていきたいです。(Mさん)

☆受講を機に、友人を誘って環境ボランティア活動に参加していきたいです。(Oさん)

～講義の様子～



(環境学習サポーターによる講義)



(リサイクル実習/ビンの仕分け作業)

(環境政策課)



「群馬県地球温暖化防止活動推進員全体研修会」のお・知・ら・せ

Rei Ohara 小原 玲 動物写真家

アザラシの赤ちゃんとの出会いが
動物写真家に転身させた

プロの写真家を招いて
今起きている現実を見る

20年以上に及ぶ流水の取材をとおして地球温暖化の目撃者となった。著書に「流水の伝言ーアザラシの赤ちゃんが教える地球温暖化のシグナル」(教育出版)など。

◆日時：平成26年2月7日(金) 14時～

◆会場：高崎市総合福祉センター2F

たまごホール

◆次第：14:00～挨拶 全体研修

14:30～15:30 小原 玲 講演

今回の地球温暖化防止活動推進員全体研修会は、アザラシの赤ちゃんの写真で有名な動物写真家「小原 玲」さんをお招きして、映像とお話を通じて、今起きている地球温暖化の現実を学びます。

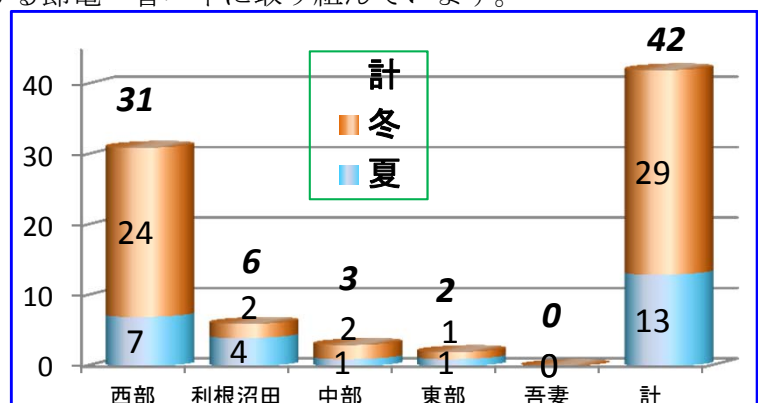
「家庭の節電・省エネ推進プロジェクト」

出前講座の開催を呼びかけてください！

センターでは、25年度も県から「家庭の節電・省エネ推進プロジェクト業務」を受託し、推進員さんのご協力をいただきながら、夏・冬の家庭における節電・省エネに取り組んでいます。

節電・省エネ出前講座への講師派遣(目標：50件)では、10人前後からの趣味の集まりや地域の会合の前のちょっとした時間(20分程度)に講師を派遣しています。現時点(12月25日現在)では、42件で目標達成まで、あと8件です。

これからが冬本番。推進員の皆さんには、一人でも多くの方が無理のない、かしこい節電・省エネ生活を送れるよう、周りの方に地域の出前講座開催の呼びかけと講師の引き受けをお願いします。



「推進員の集い」にご参加ください！



推進員の集まり、交流、勉強の場としての「推進員の集い」、今年もやっています。どうぞお出かけください！きっと新しい出会い・気付き・展開がありますよ。

事務局では、少しでも推進員さんの活動支援ができればと考えておりますので、皆さまからの忌憚のないご意見をお寄せください。集いについても、開催日のご希望でも、企画提案でも、相談でも苦情でも、なんでもお寄せください！

メールお待ちしております。 info@gccca.jp へどうぞ。

センターからのお知らせ

◇センターのホームページ、ブログをご覧ください・・・ホームページURL <http://www.gccca.jp/>

◇センターの集いに参加しませんか。メルマガ登録してください！

毎月センターに集まり、情報交換・勉強会を行っています。どなたでもご参加できます。テーマ募集しています。

1月は、9日(木)10時から。テーマは「キャンドルクッカー製作ワークショップ」です。詳細はセンターホームページやメルマガでお知らせします。

メルマガ登録がまだの方は、メールアドレスをセンター(info@gccca.jp)へお知らせ下さい。

編集・発行

群馬県地球温暖化防止活動推進センター
〒371-0016 前橋市城東町2-3-8
TEL: 027-237-1103 FAX: 027-232-1104
MAIL: info@gccca.jp

群馬県環境政策課
〒371-8570 前橋市大手町1-1-1
TEL: 027-226-2817 FAX: 027-243-7702
MAIL: kanseisaku@pref.gunma.jp

